



Verein für Deutsche Schäferhunde (SV) e.V.

gegründet 1899 - Mitglied des VDH, der FCI und der WUSV - Rechtssitz Augsburg - Hauptgeschäftsstelle Augsburg

F.C.I.-Standard-Nr. 166/23.12.2010/D

Deutscher Schäferhund

起首： Deutschland/23.03.1991
F.C.I.-種別 Gruppe 1 - 牧羊犬・牧畜犬
Sektion 1 - 作業試験を伴うシープドッグ
用途： オールラウンドユーティリティドッグ、牧羊犬、使役作業犬

歴史の説明 *Kurzer geschichtlicher Überblick:*

ドイツシェパード犬のスタンダードは、Verband für das Deutsche Hundewesen - VDH（ドイツケンネルクラブ）に所属する Vereins für Deutsche Schäferhunde (SV) e.V.（ドイツシェパード犬協会・本部所在地 Augsburg）が、1899年9月20日、フランクフルトで開催された、第1回総会において、Max von Stephanitzと Artur Meyerの提案により作成された。その後、1901年7月28日、第6回総会、1909年9月17日、Köln/Rhでの第23回総会、1930年9月5日、Wiesbadenでの理事会・諮問委員会、1961年3月25日、繁殖委員会・理事会において修正された。1976年8月30日、Weltunion der Vereine für Deutsche Schäferhunde - WUSV（世界ドイツシェパード犬協会連盟 - WUSV）の会議において改訂・採択。1991年3月23・24日、理事会と諮問委員会で承認決議され、改訂・目録化。1997年5月25日と2008年5月31日のSV総会において改訂された。

ドイツシェパード犬は、高いパフォーマンスを発揮できる作業犬を作ることを見終目的として、SV設立後の1899年から系統的な繁殖が開始された。当時すでに存在していた牧畜犬の中央ドイツ種と南ドイツ種を交配して作出された。作業犬作出という目標を達成するために、ドイツシェパード犬のスタンダードは、身体的条件だけでなく、性格や気質の特徴についても言及されている。

一般的な外観 *Allgemeines Erscheinungsbild*

ドイツシェパード犬は中型犬で、やや細長く、筋肉質で強く、骨は乾燥し、全体的にしっかりした構造をしている。

重要な比率 *Wichtige Maßverhältnisse*

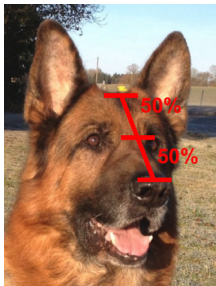
オスの体高は 60cm~65cm、メスは 55cm~60cm。体長は体高よりも 10~17% 程度上回る。

性格 *Wesen*

ドイツシェパード犬は、バランスのとれた気質で、神経が強く、自信に満ち、完全に自然体で、（刺激的な状況以外では）温和で、注意深く、従順な犬でなければならない。コンパニオンドッグ、ガードドッグ、防衛犬、使役犬、そして牧畜犬としてふさわしい、意欲、耐力、自信を備えていなければならない。

頭部 *Kopf*

頭部は体の大きさに応じたくさび形（長さは体高の 40%程度）で、ふくよかさはない。伸びすぎた形でもない。全体的に乾いた印象で、耳の間には適度な間隔がある。正面と側面から見た額は、わずかにドーム状で中央に溝はない。あるいは、わずかに認められる程度である。



頭頂部⇔額段(Stop)⇔鼻先の比率は 50%対 50%。頭蓋骨の幅は長さとはほぼ等しい。頭頂部は（上から見て）耳から鼻先まで均等に先細り、眉のラインは鋭角でなく傾斜しており、くさび形（マズル部分）になっている。上顎と下顎は強く発達している。

鼻筋はまっすぐで、くぼみやふくらみは望ましくない。唇は硬く引き締まっていて、濃い色をしている。

鼻 *Die Nase* 鼻は黒くなければならない。

歯牙（しが） *Das Gebiss* 歯は強固で健康的かつ完全であること（歯列構成は 42 本）。ドイツシェパード犬の噛み合わせはハサミ状であり、上顎の切歯と下顎の切歯がハサミのように重なり合わなければならない。切端咬合（せったんこうごう）、オーバーショット、アンダーショットは不可となる。また、歯と歯の間隙間が大きい、切歯の歯並びがまっすぐでないことは不可となる。歯列をしっかりと形成するためには、顎の骨が強く発達している必要がある。

目 *Die Augen* 目は中くらいの大きさで、アーモンド型、やや斜め、突出していない。目の色はできるだけ濃くあること。明るく鋭い目は、犬の表情を損なうので好ましくない。

耳 *Ohren*

ドイツシェパード犬の耳は中型の大きさで、直立し、水平に保たれている（横に向いていない）。形状は先細りで、開口部を前にして配置している。傾いた耳、垂れ耳は不可となる。動いているとき、または静止しているときに耳が後ろ向きになることは異常ではない。

首 Hals

首は強く、筋肉質で、喉の皮膚は緩んでいない（ひだ状でない）必要がある。体（水平）に対する角度は約 45°。

体躯 Körper

トップライン Die Oberlinie トップラインとは、首の付け根から高く長いキ甲を経て、まっすぐな背中、そしてわずかに傾斜した骨盤（Kruppe）へと切れ目なく伸びている、その全体のことである。背中は適度に長く、堅く、力強く、筋肉がしっかりついている。腰は広く、短く、強く発達し、筋肉質である。骨盤（Kruppe）は長く、わずかに傾斜しており（水平に対して約 23°）、尻尾はトップラインを遮ることのない位置で結合していなければならない。

胸部 Die Brust 胸は適度に広く、胸の下はできるだけ長く、顕著であるべきである。胸の深さはキ甲の高さに対して約 45%~48%であることが望ましい。

肋骨 Die Rippen 肋骨は適度な湾曲が必要で、樽型の胸および平らな肋骨は不可となる。

尾 Die Rute 尾は少なくとも飛節（かかと）まで伸び、しかし、後繫（うしろつなぎ）の中間地点を越えない。下側の毛はやや長めで、緩やかなカーブを描きながら垂れ下がっている。興奮したり動いたりするとより高く上がるが、水平を越えることはない。外科的な矯正は禁止されている。

四肢 Gliedmaßen

前駆 Vorhand（フォアハントの由来：馬上の騎手が手綱を持つ手の位置から垂直に下に伸ばした線から前の部分）

前肢部 Die Vordergliedmaßen 前肢はどの方向から見てもまっすぐで、正面から見ると完全に平行である。

肩甲骨と上腕骨 Schulterblatt und Oberarm 肩甲骨と上腕骨は同じ長さで、強い筋力によって体幹にしっかりと固定されている。肩甲骨と上腕骨の角度は、理想的には 90°、標準としては 110°まで。

肘 Die Ellenbogen 肘は立っているときも動いているときも、外側に向いたり、中にくい込んではいない。どの方向から見ても前腕はまっすぐで、左右の脚は互いに絶対的に平行で、乾いていて、しっかりと筋肉がついている。前繫（独 Vordermittelfuß 英 pastern）は前腕の約 1/3 の長さで、約 20°~22°の角度を持つ。傾斜しすぎた繫（22°以上）と、急峻に立った繫（20°以下）は、ともに使用適性、特に持久力を損なう。

指 Die Pfoten 指（肉球）は丸みを帯び、しっかりと締まってアーチを描き、足裏は硬いがもろくない。爪は硬く色も濃い。

後肢 *Hinterhand*

後肢はやや後方へと伸びている。後ろから見た場合、左右の後肢は平行である。大腿の上部と下部はほぼ同じ長さで、約 120°の角度を形成し、腰は強く、筋肉質である。

飛節 *Die Sprunggelenke* 飛節（かかと）は強く発達して固く、後繫（独 Hintermittelfuß 英 pastern）は地面に対して垂直 90°となっている。

指 *Die Pfoten* 指（肉球）は、しっかり締まってアーチを描き、パッドは硬く、濃い色をしている。爪は強く、弓なりになっており、濃い色をしている。

歩行 *Gangwerk*

ドイツシェパード犬は Trotter である。歩行の際、背中のラインを大きく変えることなく、後肢を胴体部分まで移動させ、前肢と同じくらい遠くに伸ばす（蹴る）ことを可能とするために、四肢は長さや角度が調整されていることが非常に重要である。後肢に過度な角度付けをすると、強度とスタミナが低下して、運動能力が損なわれる。正しい体型と角度によって、地面に対してフラットで伸びやかな歩容が得られ、スムーズに前進する印象を与える。頭を前に押し出し、尾をわずかに上げ、耳の先から首を通り、尾の先まで続く、柔らかくカーブした切れ目のないトップラインは、滑らかで落ち着いた Trot をもたらす。

肌 *Haut*

皮膚は（ゆるく）ボディにフィットしている。たるみやシワはない。

被毛 *Haarkleid*

毛質 *Beschaffenheit des Haares*

毛：*Haar*

ドイツシェパード犬は、アンダーコートのあるシュトックハールとラングシュトックハールの二つの毛種に分けて別々に繁殖される。

シュトックハール：*Stockhaar*

トップコートは、できるだけ濃密で、まっすぐで硬く、密着していなければならない。耳の内側を含む頭部、脚の前面とつま先は短く、首部分はやや長く、毛量が多い。前肢の後ろ側は前繫の関節まで、そして後肢の後ろ側は飛節まで伸び、適度な太さのズボン状になっている。

ラングシュトックハール：*Langstockhaar*

トップコートは長く、柔らかく、密着していない。耳と脚に旗状の毛があり、尾はふさふさのズボン状である。旗状は下向きに形成されていることが望ましい。耳の内側を含む頭部、脚の前面とつま先は短く、首はやや長く、毛量が多く、たてがみのようになっている。前肢の後ろ側は前繫の関節まで、そして後肢の後ろ側は飛節まで伸び、はっきりとした太さのズボン状になっている。

色 *Farben*

黒地に赤褐色、茶色、黄色から薄い灰色の斑点がある。オールブラック、グレー（濃い雲がある）、背部（鞍部）とマスクはブラックである。目立たない小さな白い胸のマークや、内側が明るい色であることは許容されるが、望ましくない。どのカラーバリエーションであっても鼻は黒色でなければならない。マスクが黒くない、目の色が、明るい～鋭い目つき。胸や内側（腹の下、太ももの内側）が、薄い～白っぽい。爪の色が薄い。尾の先端が赤い。などは色素が弱いと評価される。アンダーコートはわずかにグレーがっている。白色は認められない。

体高/体重 *Größe/Gewicht*

オス：キ甲部にて測定 60cm～65cm 体重 30kg～40kg

メス：キ甲部にて測定 55cm～60cm 体重 22kg～32kg

睾丸 *Hoden*

オスの場合、正常に発達した二つの睾丸が陰囊（いんのう）に完全に収まっていることが必要である。

欠点 *Fehler*

上記（スタンダード）から逸脱するものは欠陥とみなされる。欠陥の深刻さはその程度に正比例する。

重度の欠点 *Schwere Fehler*

上記（スタンダード）の犬種特性から逸脱し、実用性が損なわれるものは欠点となる。

耳の欠点：耳が横に下がりすぎている、耳が傾いている、耳が盾のように広がっている、耳がしっかりと立っていない。

色素が著しく不十分。

全体的に強度が著しく不十分。

歯の欠損 *Zahnfehler*

噛み合わせ不良と歯列（本数）の欠損は欠点となる。欠点ではなく除外される重大な歯の欠陥（認められない犬）は下記を参照。

除外される欠陥（認められない犬） *Ausschließende Fehler*

- a) 気質、咬み犬、神経が弱い犬
- b) 「重度のHD」と確認された犬
- c) 睪丸が一つまたは停留睪丸の犬、明らかに睪丸が不均等または萎縮している犬
- d) 耳や尾に重度の欠陥がある犬
- e) 奇形が認められる犬
- f) 以下の歯牙欠損のある犬
 - ・ 第3小臼歯（P3）1本とその他の歯1本
 - ・ 犬歯（F）1本
 - ・ 第4小臼歯（P4）1本
 - ・ 第1後臼歯（M1）1本
 - ・ 第2後臼歯（M2）1本
 - ・ 合計3本以上の歯がない
- g) 顎に欠陥がある犬
 - ・ オーバーショット、アンダーショットが2mm以上
 - ・ 切歯部全体の噛み合わせ不良
- h) 1cmを超えるオーバーサイズまたは1cm足りないアンダーサイズの犬
- i) 色素の遺伝的欠如
- j) 白い被毛（黒目、爪を含む）
- k) アンダーコートのないロングシュトックハール
- l) ロングコート（アンダーコートのない長く柔らかい被毛で、ほとんどが背中中央で分かれ、耳と脚と尾に旗状毛がある犬）